
ハナダジムジムリーダーサトシ!?後編

アンネン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハナダジムジムリーダーサトシ！？後編

【Nコード】

N9585M

【作者名】

アンネン

【あらすじ】

カスミが倒れてから数日カスミのお姉ちゃんがジムに帰ってきた。

(1)

サトシがジムリーダー勤めて3日たったところだった。

???「ひさしぶりね、ハナダに帰ってきたの」

???「サクラ姉さんが余りのんびりしすぎたからカスミきつと怒っているよ」

サクラ「そうね。カスミにもちょっとわるいことしちゃたからね」
悪いことしちゃったと反省するサクラ。

この3人は、カスミのお姉さんーサクラ、ボタン、アヤメは、ずっと旅行してたためジムをカスミを任せていたのだ。

ボタン「ちよつとジムをのぞいていきますか」

アヤメ「そうね」

こうしてカスミお姉さんたちは、ジムへ向かう。

もちろんジムの前にヤストシがものすごく目立つ看板にカスミお姉さんたちは、気づいた。

アヤメ「これどういうことなのサクラ姉さん？」

サクラ「私に聞かれたって困るは、アヤメ」

ボタン「とにかくジムへ行ってみよう」

カスミお姉さんたちは急いでジムへ入る。

カスミお姉さんたちがジムに入ったらサトシは、ちょうどジム戦をやっていた。

ボタン「本当にサトシ君がジムリーダーやってるわ」

ボタンがサトシがジムリーダーやてるのに驚く。

そのサトシは、カスミお姉さんたちのことに気づく余裕は、なかった。

サトシ「やるね君。でも俺は、まだまだ諦めてないぜ。最後は、俺の相棒ピカチュウだ」

ピカチュウ「ピカチュウ」

少年「だつたらクサイハナお前の出番だ」

ヤストシ「始め」

サトシ「ピカチュウ、電光石火」

少年「クサイハナ、はっぱカッター」

サトシと少年は、白熱なバトルをする。

(2)

さて二人のジム戦を見ている人物が二組あった。

もちろん一組目は、カスミお姉さんたちそしてもう一つは、ジムのことが心配で見に来たカスミであった。

カスミ「(サトシ…私のためにジムを代わりにしてくれて・・・)
ゲホゲホ」

カスミは、無理に出てきたため再びこじらした。
でもサトシは、気づくことは、なかった。

カスミは、仕方がなかった。今は、サトシは、ジムリーダーとして今ジム戦をしているのだから。

少年「クサイハナまだやれるか？」

クサイハナ「クサ」

少年「そうだ。俺たちは、まだやれる絶対に諦めたりは、しないクサイハナ、ソーラービーム」

サトシ「ピカチュウ、ボルテッカーだ」

両者電気、草の最強の技を繰り出す。

ピカチュウのボルテッカー、クサイハナのソーラービームが炸裂し爆発する。

サトシ「ピカチュウ」

カスミ「(どっちが勝ったの?)」

サクラ・ボタン・アヤメ「…」

煙が晴れるとピカチュウが倒れていた。

サトシ「ピカチュウ!？」

ヤストシ「ピカチュウ戦闘不能クサイハナの勝ち。よってこの勝者
タマムシシテイケンタ」

ケンタ「やったクサイハナ」

クサイハナ「クサ」

そしてサトシがよってくる。

サトシ「俺の負けた。このジムでジムリーダーを勤めて君が初めて俺を倒した…これは、勝者の証ブルーバッチだ」

ケンタ「ブルーバッチゲットだぞ」

こうしてケンタは、ジムを去っていた。

カスミ「サトシ…」

サトシ「カスミ！？どうしてここに…」

カスミ「サトシのジムリーダーぶりを見に来たのよ。見事ジムリーダーの仕事はたしてるね」

サトシ「そんなことないよ」

カスミ「これは、私からのごほうび」

カスミは、サトシの唇にキスをする。

サトシ「カスミ…」

カスミ「私サトシの事が好きよ」

サトシ「俺もだ。カスミ」

二人は、抱きついた。

サクラ「サトシ君、カスミ」

アヤメ「よっお。お似合いカップル」

そこにカスミのお姉さん達が現れる。

もちろんそこにずっとヤストシもいた。

カスミ「お姉ちゃん。どうしてここに？」

ボタン「どうしてここにつて先旅行から帰ってきたのよ」

ヤストシ「それにしても俺の存在忘れて大胆にキスや抱きつくなんて」

カスミ「それ…ゲホゲホ」

サトシ「ほらおとなしく寝てないから。ほら背中に乗れ」

カスミ「ありがとう」

カスミが顔を赤くしながらサトシの背中に乗る。

サクラ「やつぱり…お似合いカップルね」

ヤストシ「ほんとですね」

カスミのお姉さん達とヤストシは、二人をずっと見守っていた。

(3)

その後サトシの努力したおかげでカスミは、おかげで治った。しかしジムは、サトシが勤めていた。カスミのお姉さん達がサトシにジムを代わりに押し付けたがカスミが病氣から治るとカスミのお姉さん達がジムを務める。

サトシ「カスミ…俺とまた旅してくれない」

カスミ「もちろんよ。で、どこに行く？」

サトシ「まだ考えていない」

カスミ「何よ」

カスミがサトシに文句を言おうとしたときヤストシが割り込んでくる。

ヤストシ「だったらさ。インシュいてみたら」

カスミ「ヤストシいつの間に!？」

サトシ「インシュか。行ってみるかカスミ」

カスミ「サトシが言うなら私も行くわ」

こうして二人は、インシュへと旅に出る。

ヤストシ「おい置いて行くな」

ヤストシ(?)も二人を追ってインシュへと旅たった。

終わり

（後書き）

今期秋に放送されるポケットモンスターシリーズの今度の舞台インシュ。この旅には、タケシをレギュラー降ろしてカスミを8年ぶりのレギュラー復活させたいと願っています。それでは、サヨナラ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9585m/>

ハナダジムジムリーダーサトシ!?後編

2010年10月28日02時45分発行